



CG-WLCB54AG

取扱説明書



パソコンのデータを悪意ある第三者から守るために、各種セキュリティ機能を使用してお使いください。
セキュリティの設定方法は本書の「セキュリティを設定する」(P.31)をご覧ください。

作業の流れ

PART1
まず準備が必要

1

PART2
本製品をパソコンに
取り付けよう

2

PART3
無線 LAN の
設定をしよう

3

PART4
ユーティリティの
画面について

4

PART5
トラブルや疑問が
あったら

5

付録

付
録

はじめにお読みください

このたびは、「CG-WLCB54AG」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本製品はPC Card Standard (CardBus) Type II用IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g対応の無線LANカードです。本書は、本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただけるように、大切に保管してください。



安全にお使いいただくために

必ずお守りください

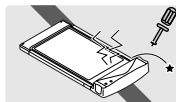


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。

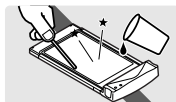


雷のときはさわらない

異物はいれない

水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。



異物厳禁

湿気やほこりの多いところ油煙や湯気のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となります。



設置場所注意

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・ 直射日光の当たる場所
- ・ 暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・ 急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・ 湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（製品仕様に記載されている環境でご使用ください）
- ・ 振動の激しい場所
- ・ ほこりの多い場所や、シュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・ 腐食性ガスの発生する場所



日本国内で使用してください

本製品は日本国内仕様となっておりますので、本製品を日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。



長期保管時は袋に入れて

本製品を長期間ご使用にならない場合は、パソコンから取り外して必ず添付の袋（静電防止）に入れて保管してください。



カードは袋に

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつかけたり、強いショックを与えないでください。



本製品は一般使用を目的とした製品です

本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関わる設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んだ使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなど本製品を使用され、本製品の故障による、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じて、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や設計、制御システムにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全に万全を期されるようご注意ください。



お手入れについて

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る

.....

お手入れには次のものは使わないでください

石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください）



シンナー類
禁止

電波に関するご注意

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。

また設置の前に、「安全のために」を必ずお読みください。

- ・心臓ペースメーカーをご使用の近くで、本製品をご使用にならないでください。心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- ・医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- ・電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品の周波数を変更して、混信を回避してください。
- 3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合などは本製品の使用を停止し、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

5.4GHz を屋外でご使用することは電波法で禁止されています。
IEEE802.11aは屋外で使用することができませんのでご注意ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報処理装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しく取り扱いをしてください。

無線 LAN 製品ご使用における セキュリティに関するご注意

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ・ ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
- ・ メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・ コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することを推奨します。

本書の読みかた

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

注意!	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本製品	CG-WLCB54AG のことです。
「 」－「 」－「 」	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[]	[] で囲まれた文字は、画面上のボタンを表します。

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

作業の流れ

本書では、本製品を使って無線LANに接続するまでの作業をPARTに分けて説明しています。各PARTでの作業は次のとおりです。順番に読んで、作業を進めてください。

PART1

まず準備が必要

- ① 添付品の内容を確認しよう
- ② 接続方法を決めよう
アクセスポイントを介した「インフラストラクチャーモード」・パソコン同士で直接通信を行う「アドホックモード」のいずれかの接続方法を決めます。
- ③ 各部の名称と機能を覚えよう

PART2

本製品をパソコンに取り付けよう

- ① ユーティリティをインストールする
添付のCD-ROMからユーティリティをインストールします。使用するOSに対応した箇所を読んでください。
- ② 本製品をパソコンに差し込む
本製品をパソコンのPCカードスロットに挿し込み、ドライバーをインストールします。
- ③ 無線ユーティリティを起動する
本製品のユーティリティを起動して、本製品がパソコンに正常に認識されているかどうか確認します。

PART3

無線LANの設定をしよう

- ① パソコンのネットワーク設定を確認する
- ② セキュリティを設定する
本製品には、ご使用のパソコンのデータを悪意ある第三者より守るための各種セキュリティ機能があります。セキュリティ機能を設定してお使いください。

ここまでの作業が終われば無線LANに接続できるようになります。以降は、必要に応じてご覧ください。

PART4

ユーティリティの画面について

本製品のユーティリティ画面についての説明です。

PART5

トラブルや疑問があったら

PART3 までの作業で無線 LAN に接続できなかった場合には、この PART を読んで解決方法を探してください。

付 録

付録

本取扱説明書内で使われている用語集や本製品の工場出荷時の設定、保証と修理に関する説明があります。また、弊社へのお問い合わせ方法に関する説明があります。

目次

はじめにお読みください	表紙裏
安全にお使いいただくために	表紙裏
ご使用にあたってのお願い	1
お手入れについて	2
電波に関するご注意	3
無線 LAN 製品ご使用におけるセキュリティに関するご注意	4
本書の読みかた	5
作業の流れ	6

PART1 まず準備が必要 10

添付品の内容を確認しよう	10
接続方法を決めよう	11
各部の名称と機能を覚えよう	13
本体表面	13

PART2 本製品をパソコンに取り付けよう 14

ユーティリティをインストールする	14
ソフトウェアのインストール	14
本製品をパソコンに挿し込む	18
本製品をパソコンに挿し込む時の注意	18
ドライバーのインストール	18
無線ユーティリティを起動する	20
本製品を使わないときには	21
本製品をパソコンから取り外す	21

PART3 無線 LAN の設定をしよう 22

パソコンのネットワーク設定を確認する	22
インターネットに接続するとき	22
他のパソコンとファイルやプリンターの共有をするとき	29
「Ad-Hoc モード」で使うときは	30
セキュリティを設定する	31
無線 LAN のセキュリティについて	31
ESSID を設定する	32
WEP を設定する	33
WPA を設定する	34

PART4 ユーティリティの画面について 38

ユーティリティを起動しよう	38
「設定」画面	39
「IP 設定」画面	40
「プロキシ設定」画面	41
「状態」画面	42
「オプション」画面	43
「バージョン情報」画面	45

PART5 トラブルや疑問があったら 46

解決のステップ	46
取扱説明書を再確認する。管理者に確認する	47
Q&A	47
本製品用ユーティリティのインストールができない	47
「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない	48
「デバイスマネージャ」で「×」が付く	49
ユーティリティを削除するには？	49
通信ができない	50
ユーティリティに表示されないタブがある	51
より安定した通信をするには？	51
通信速度が遅い	52
「マイネットワーク」に他のパソコンが表示されない	52
ホットスポットサービスを利用するには？	53
最新のユーティリティやドライバーを入手したい	53

付録 54

用語集	54
製品仕様	56
工場出荷時の設定	57
保証と修理について	57
保証について	57
修理について	57
有償修理について	57
製品に関するご質問は・・・	58
弊社ホームページのご案内	59
おことわり	59

PART1 まず準備が必要

添付品の内容を確認しよう

本製品のパッケージには、次のものが同梱されています（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですがご購入された販売店までお問い合わせください。



□ CG-WLCB54AG 本体



□ ユーティリティディスク
(CD-ROM 1枚)



□ 電波干渉注意ラベル
(1枚)



□ クイック設定ガイド
(1枚)



□ 取扱説明書（本書）



□ 製品保証書

注意! ご使用しているパソコンのシステム（環境）をご確認ください

以下の条件を満たしたパソコン	以下のOSのいずれかがインストールされているパソコン
・ DOS/V、または PC98-NX（NEC 社製） ・ CardBus 対応の PC カードスロット（PCMCIA TYPE II）を搭載している ・ CD-ROM ドライブが装備されている	・ Windows XP Home Edition ・ Windows XP Professional (32bit) ・ Windows 2000 ・ Windows Me ・ Windows 98 Second Edition

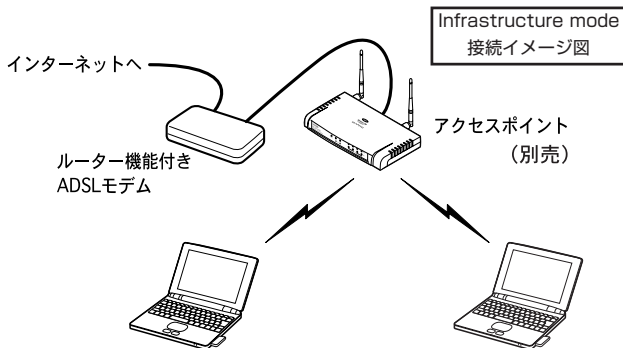
接続方法を決めよう

本製品は、IEEE802.11a 規格、IEEE802.11g 規格、IEEE802.11b 規格に対応したワイヤレス（無線 LAN）通信アダプターです。IEEE802.11a 規格、IEEE802.11g 規格、IEEE802.11b 規格に対応した無線ルーター、無線アクセスポイントと組み合わせることで、無線ネットワークを構築することができます。また、同じ規格の無線アダプター間の通信をすることもできます。以下の例を参考にし、本製品とパソコンの接続方法を決めてください。

メモ 本製品は、各社の無線 LAN 機器との間で相互接続性を確保していますが、個別製品の接続可否については、お使いの機器の製造・販売元にお問い合わせください。また、コレガのホームページでは、本製品との接続が確認された動作検証表を随時公開していきますので、併せてご覧ください。

● 無線ルーターやアクセスポイントを使ってインターネットに接続するなら 「インフラストラクチャーモード (Infrastructure mode)」

「インターネット接続を家族みんなで共有したい」「ケーブルなしでインターネットに接続したい」といった場合には、無線ルーターまたはアクセスポイントを使ってインターネット接続をします。このときには「インフラストラクチャーモード (Infrastructure mode)」にします。

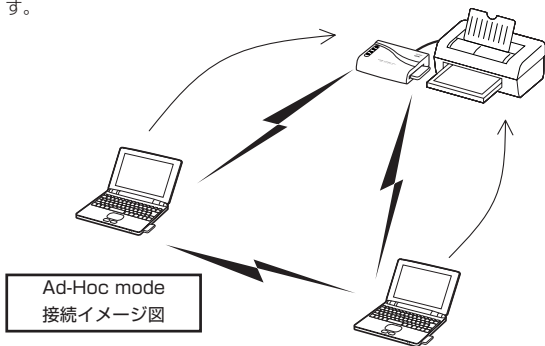


メモ 無線ルーターまたは、アクセスポイントを別途ご購入いただく必要があります。

● パソコン同士でファイルのやり取りをするだけなら

「アドホックモード (Ad-Hoc mode)」

「離れた場所にあるパソコン同士でファイル交換ができればいい」という場合には、アクセスポイントは不要です。次の図のように、無線LAN機能があるパソコン同士で直接通信をします。このときには「アドホックモード (Ad-Hoc mode)」にします。



● 無線LANのセキュリティ対策について

無線LANでは電波を使って通信を行うため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されたりする恐れがあります。このようなことがないように、次のようなセキュリティ機能を用意しています。設定を行いたい場合は、PART3の「無線LANの設定をしよう」「セキュリティを設定する」(P.31)をご覧ください。

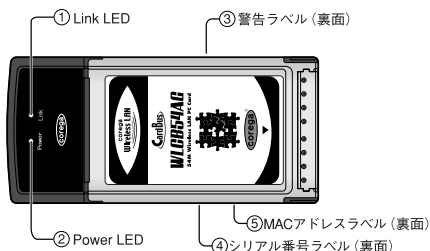
- ・ 通信グループ化をする
ESSID を設定する
- ・ 通信内容を暗号化する
WEP (暗号キー) を設定する
WPA (高度な暗号キー) を設定する

メモ 本製品の工場出荷時の設定は、右表のとおりです。

項目	出荷時設定
ESSID	corega
暗号化	無効
チャンネル	Auto
認証方式	Open System

各部の名称と機能を覚えよう

■本体表面



① Link LED (緑)

Power LED と交互に点滅：通信相手先の検索中です

点滅：Link が確立している状態です

高速点滅：通信中です

※ Windows XP 以外の OS の場合、Infrastructure mode で通信を行っていない状態が長く続くと、通信待機状態となり、link LED が消灯します

② Power LED (緑)

点滅：電源が供給されている状態です

消灯：電源が供給されていない状態です

③警告ラベル (裏面)

本製品を安全にご使用いただくための重要な情報が記載されています。必ずお読みください。

④シリアル番号ラベル (裏面)

本製品のシリアル番号（製造番号）とリビジョンが記入されています。同じものが、パッケージ(外箱)にも貼付されています。このシリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへの問い合わせ時に必要な情報です。

⑤ MAC アドレスラベル (裏面)

本製品の MAC アドレスが記載されています。

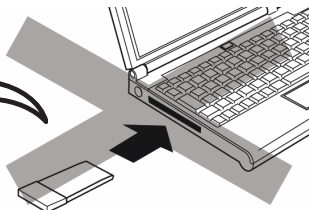
メモ 裏面のラベルに記載されている **2.4 DS 4** **2.4 OF 4** は次の内容を意味しています。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
伝送方式	DS-SS 方式 / OFDM 方式
想定干渉距離	40m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」帯域を回避可能

PART2 本製品をパソコンに取り付けよう

注意! 本製品をパソコンに接続する前に、必ず付属のユーティリティーディスクをインストールしてください。

ユーティリティーディスクをインストールする前に、
本製品をパソコンに
差し込まないで！



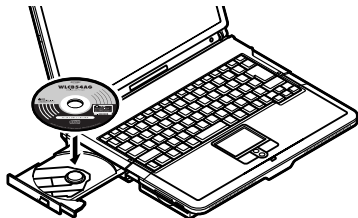
ユーティリティーをインストールする

■ソフトウェアのインストール

本製品を使用するためのソフトウェア（ドライバー、ユーティリティー）を、パソコンにインストールする方法を説明します。ここでは、Windows XPの画面を使用して説明しています。基本的な操作は、Windows XP/2000/Me/98 で共通です。差異のある操作等に関しては、該当の記載内容をご覧ください。

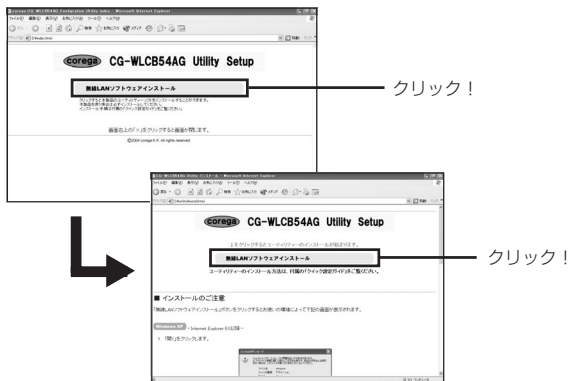
- 注意!**
- ・ Windows XPの場合は、「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンしてください。
 - ・ Windows 2000の場合は、「Administrator」または Administrators グループのユーザー名でログオンしてください。
 - ・ 本製品はユーティリティーのインストールが完了し、パソコンを再起動させるまで差し込まないでください。

1 ユーティリティーディスクをパソコンのCD-ROMドライブに入れます。



自動的に手順2（次ページ）のユーティリティーセットアップ画面が表示されます。しばらく待っていても表示されない場合は、「マイコンピュータ」のCD-ROMのアイコンをダブルクリックしてください。

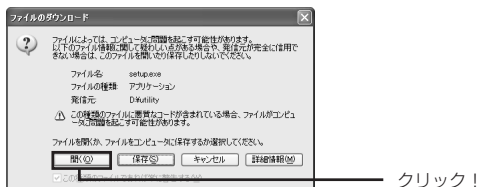
- 2 「無線LANソフトウェアインストール」をクリックして、次に表示された画面でも「無線LANソフトウェアインストール」をクリックします。



- 3 「開く」ボタンまたは「このプログラムを上記の場所から実行する」をクリックします。

● Windows XP の場合

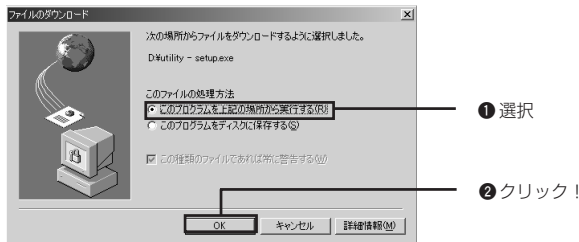
次のような画面が表示されますが、そのまま「開く」ボタンをクリックします。



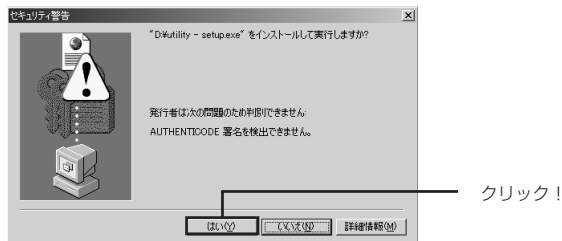
❌ 弊社にて動作確認をしております。

● Windows 2000 / Me / 98SE の場合

- ① 「このプログラムを上記の場所から実行する」を選択して、[OK] ボタンをクリックします。



- ② セキュリティ警告が表示されますが、そのまま [[はい]] ボタンをクリックします。

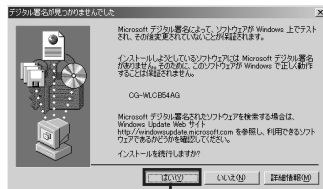
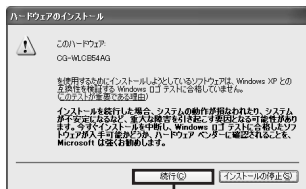


- ❖ 弊社にて動作確認しております。

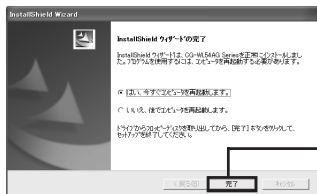
- 4 その後「InstallShield wizard」の画面がいくつか出てきますので、[次へ] ボタンをクリックしていきます。



- ☒ Windows XP、2000 の場合、次のような画面が表示されますが、そのまま [続行] ボタンまたは [はい] ボタンをクリックしてください。



- 5 「InstallShield ウィザードの完了」の画面が表示されたら、[完了] ボタンをクリックします。



- 6 パソコンが再起動を始めます。
- 7 パソコンが再起動をしたら、CD-ROMドライブからユーティリティディスクを取り出します。

本製品をパソコンに挿し込む

■本製品をパソコンに挿し込む時の注意

- ・本製品を取り付ける前に、必ず「ユーティリティをインストールする」(P.14)の作業を行ってください。
- ・CardBus 非対応のPC カードスロットには、絶対に本製品を挿入しないでください。無理に挿入しようとすると、PCカード、またはPC カードスロットを破損する恐れがあります。
- ・Windows XP の場合は、「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンする必要があります。
- ・Windows 2000の場合は、「Administrator」または Administrators グループのユーザー名でログオンする必要があります。
- ・本製品をパソコンに取り付けるときに他のPCカードと接触すると、故障の原因になりますので他の PC カードを取り外してから取り付けてください。

■ドライバのインストール

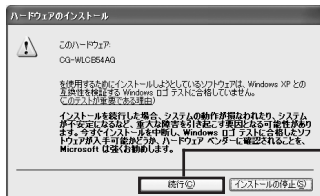
- 1 ユーティリティのインストール後、パソコンが再起動したら、パソコンのPCカードスロットに本製品をまっすぐに差し込み、手ごたえがあるまで押し込みます。

メモ パソコンにより差し込む位置や向きが異なります。

- 2 ドライバが自動的にインストールを開始します。

●Windows XP の場合

- ① 「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」が表示されるので、[次へ] ボタンをクリックします。
- ② 次のような画面が表示されますが、そのまま [続行] ボタンをクリックします。



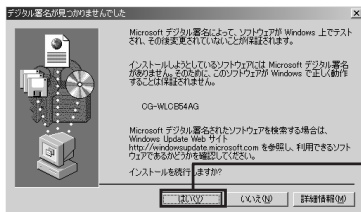
クリック！

メモ 弊社にて動作確認をしております。

- ③ ドライバーのインストールが完了したというメッセージ画面になります。[完了] ボタンをクリックします。
- ④ パソコンを再起動します。

● Windows 2000 の場合

- ① Windows 2000 の場合、「デジタル署名が見つからない」というメッセージが出ますが、そのまま [はい] ボタンをクリックします。



クリック！

- ② 弊社にて動作確認をしております。

- ③ パソコンを再起動します。

● Windows Me / 98SE の場合

- ① 自動的に本製品のドライバーがインストールされます。

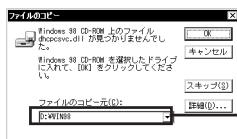
注意! Windows 98SE では OS の CD を挿入するようメッセージが表示される場合があります。その時は以下のようにしてください。

1. CD-ROM ドライブに Windows 98SE の CD-ROM を入れて、[OK] ボタンをクリックします。



クリック！

2. 「ファイルのコピー元」に以下のように入力し [OK] ボタンをクリックします。



「D:¥WIN98」または「C:¥WINDOWS ¥OPTIONS¥CABS」と入力する。

※ ドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。「マイコンピュータ」をダブルクリックして確認してください。



- ② パソコンを再起動します。

無線ユーティリティを起動する

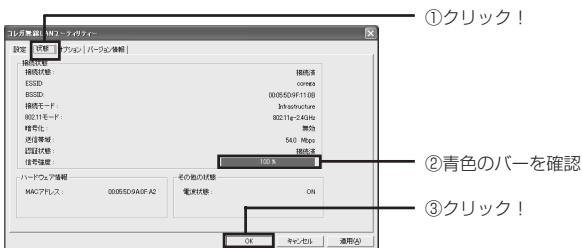
無線ユーティリティを起動し、接続状態を確認します。

- **メモ** 本製品と接続する無線LAN機器の設定が完了していることを確認してください。

- 1 画面右下のタスクトレイにある  をダブルクリックして、ユーティリティ画面を開きます。



- 2 「状態」タブをクリックして、「通信強度」に青色のバーが表示されていることを確認してください。表示されていれば、正常に接続されています。



- **メモ** ●安定した通信を行うために、「通信強度」の青色のバーの表示が100%に近い場所でお使いください。
- 接続する無線LAN機器にセキュリティ設定がされている場合は、青色のバーは表示されません。

- 3 [OK] ボタンをクリックして画面を閉じます。

これで本製品のセットアップが終了しました！

本製品を使わないときには

■本製品をパソコンから取り外す

本製品をパソコンから取り外す場合は、以下の手順で取り外してください。正しい手順で取り外さないとパソコンが正常に動作しなくなることがあります。

注意!

- ・本製品を取り外す前に、ご使用のパソコンがネットワークに接続していないこと、また、他のパソコンからアクセスされていないことを確認してください。
- ・以下の操作を行うと、実際に本製品を取り外さなくてもデバイスの使用を停止したとみなされ、本製品は使用できなくなります。再度使用するときは、一度本製品を取り外してから再び取り付けてください。

- 1 画面左下のタスクトレイの  または、 をクリックし、「CG-WLCB54AGを安全に取り外します」をクリックします。(ご使用のOSにより、下線部の表示は、中止や停止するという意味の内容になります。)
- 2 安全に取り外せる旨のメッセージが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。
- 3 PCカードスロットのイジェクトボタンを押し、本製品をPCカードスロットから取り外します。

以上で取り外しの手順は終了です。

再度使用する場合は、そのままPCカードスロットに取り付けると使用できます。

- ⓧ 手順2で安全に取り外せる旨のメッセージが表示されない場合、お使いのパソコンのハードウェアまたは、ソフトウェアが、本製品を使用している可能性があります。お使いのパソコンの電源を切ってから、本製品を取り外してください。

PART3 無線 LAN の設定をしよう

パソコンのネットワーク設定を確認する

無線 LAN でデータをやりとりしたり、インターネットに接続したりするには、ネットワークの設定が必要です。

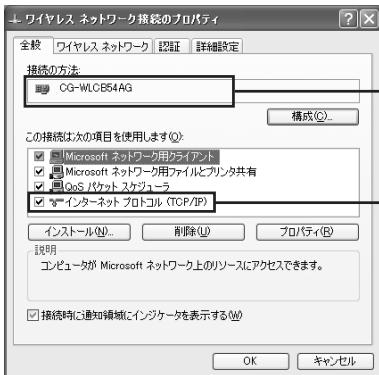
■インターネットに接続するとき

本製品を接続したパソコンでインターネットに接続するには TCP/IP の設定が必要です。次の手順で設定を確認してください。

● Windows XP の場合

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「コントロールパネル」にある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。
- 3 「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。
- 4 「ワイヤレスネットワーク接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

- 5 「全般」タブで「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっているか確認します。



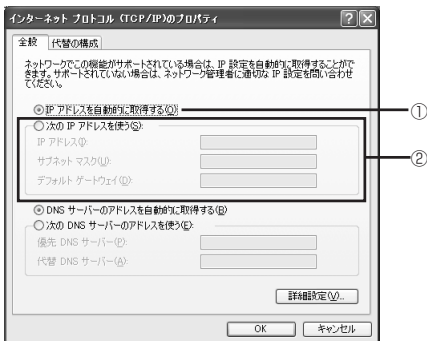
①ここに本製品の名称が表示されていることを確認してください。

②チェックマークが入っていることを確認してください。

- 6 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。

7 「全般」タブを選択し、次のように設定をします。

- ①DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。
- ②DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。



8 [OK] ボタンをクリックします。

9 「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面で、[OK] ボタンをクリックします。

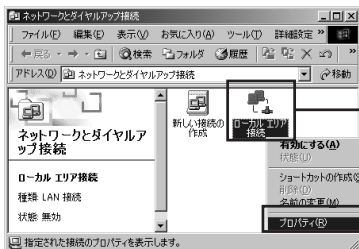
10 再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動します。 メッセージが表示されなかった場合も、手で再起動してください。

インターネットに接続するにはルーターなどの設定も必要です。各機器の取扱説明書をご覧ください。

● Windows 2000 の場合

注意! この作業は、「Administrator」または同等の権限を持つユーザー名でログインして行ってください。ユーザー権限については、OSの取扱説明書をご覧ください。

- 1 [スタート] ボタン→「設定」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。
- 2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

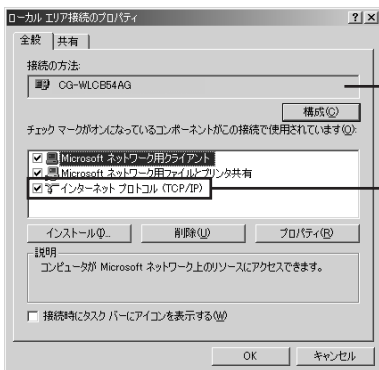


① 「ローカルエリア接続」のアイコンを右クリックします。

② 「プロパティ」をクリックします。

※「ローカルエリア接続」の名称はご使用のパソコンの環境により異なる場合があります。

- 3 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっていることを確認します。



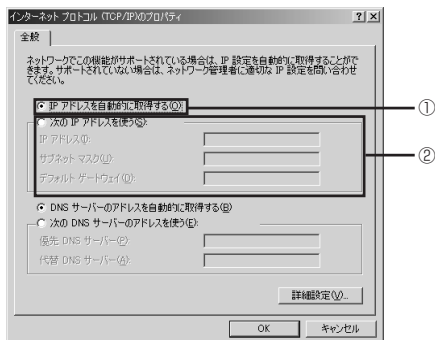
① ここに本製品の名称が表示されていることを確認してください。

② チェックマークが入っていることを確認してください。

4 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。

5 次のようにIPアドレスの設定をします。

- ① DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。
- ② DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。



6 [OK]ボタンをクリックします。

7 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で[OK]ボタンをクリックします。

8 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メモ メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

インターネットに接続するにはルーターなどの設定も必要です。各機器の取扱説明書をご覧ください。

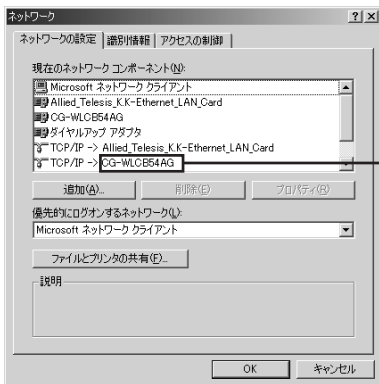
● Windows 98 SE/Me の場合

ここでは例として Windows Me を使用しています。Windows 98 SE をご使用の場合も手順は同様です。

- 1 「スタート」ボタン-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「コントロールパネル」にある「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

メモ Windows Meの場合、「ネットワーク」アイコンが表示されない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックしてください。

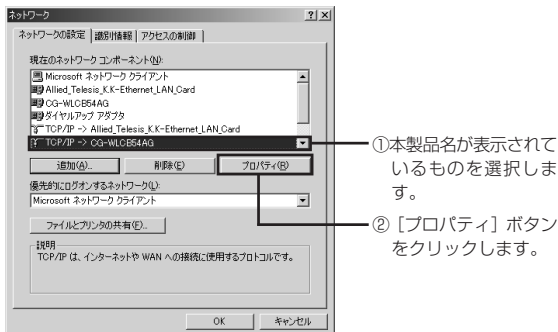
- 3 「ネットワークの設定」タブ内で「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP → CG-WLCB54AG」が表示されていることを確認します。



ここに本製品の名称が表示されていることを確認してください。

※ネットワークアダプタが本製品だけの場合は「TCP/IP」と表示されます。

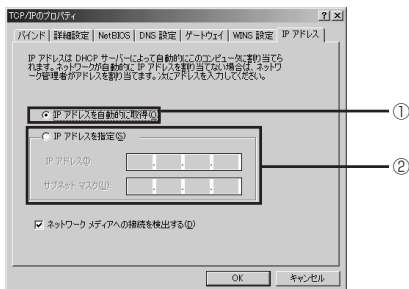
- 4 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP→CG-WLCB54AG」を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。



- 5 「IPアドレス」タブで、次のように設定をします。

- ①DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。
- ②DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。

注意! 詳しくはルーターのメーカー、プロバイダー等にご確認ください。



6 [OK]ボタンをクリックします。

7 「ネットワーク」画面の、[OK]ボタンをクリックします。

- メモ** WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合はドライブにWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。
再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

■他のパソコンとファイルやプリンターの共有をするとき

使用するネットワーク環境に応じて、次のような設定を行ってください。設定方法について詳しくは、Windowsの取扱説明書やヘルプをご覧ください。企業などで利用する場合は、ネットワーク管理者に設定内容を確認してください。

- ・必要なサービスやプロトコルを追加、有効にする
- ・コンピュータ名とワークグループ名を設定する
- ・フォルダやプリンターの共有設定をする

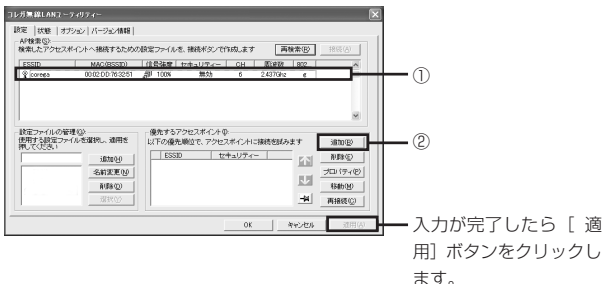
これで無線LANを使って他のパソコンとファイルのやりとりをしたり、インターネットへ接続したりできるようになります。

次に「セキュリティを設定する」(P.31)に進んでください。

■「Ad-Hoc モード」で使うときは…

画面右下のタスクトレイにある  をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。

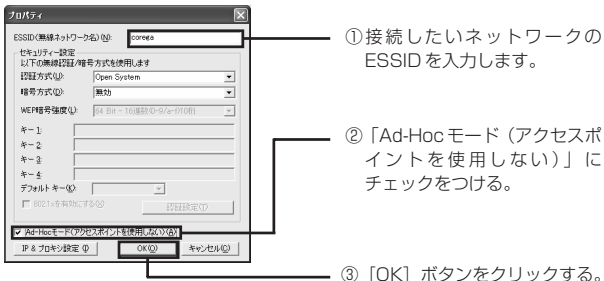
1 通信可能なESSID(ネットワーク)が表示されます。



①接続したいESSID(ネットワーク)をダブルクリックします。

②新規で「Ad-Hocモード」を利用したネットワークを構築する場合は「追加」ボタンをクリックします。

2 「優先されるアクセスポイント」の欄に表示されたESSIDを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。



3 手順1の画面右下の「適用」ボタンをクリックして設定を反映させます。

これで「Ad-Hocモード」の設定は完了しました。「セキュリティを設定する」(次ページ)をご覧ください、セキュリティの設定を行ってください。

セキュリティーを設定する

■無線 LAN のセキュリティーについて

無線 LAN ではデータの通信に電波を利用しているため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、悪意ある第三者により通信内容を盗み見られ ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報やメールの内容を盗み見られたり、悪意ある第三者によりネットワークへのアクセス不正に侵入され、個人情報や機密情報を取り出されたり（情報漏洩）、特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流される（なりすまし）、傍受した通信内容を書き換えての発信（改ざん）、コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムの破壊（破壊）の危険性があります。

本製品には、これらの問題に対応するためのセキュリティー機能を持っていますのでセキュリティー設定を行ってください。

●本製品で設定できるセキュリティー機能

・ ESSID(Extended Service Set Identifier)

無線 LAN に接続する機器を識別する名前です。SSID と呼ばれることもあります。同じ ESSID を持つ無線 LAN 機器同士でしか通信できないため、独自の ESSID を設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。設定方法については、この PART の「ESSID を設定する」(次ページ)をご覧ください。

・ WEP(Wired Equivalent Privacy)

通信内容を暗号化し、通信内容の傍受を防ぐセキュリティー機能です。通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができません。設定方法については、この PART の「WEP を設定する」(P.33) をご覧ください。

・ WPA(Wi-Fi Protected Access)

暗号化するための暗号キーが一定時間ごとに自動的に変わるので、WEP よりも解読されにくくなります。家庭でご利用できる「WPA - PSK (Personal)」と企業内でご利用できる「WPA - EAP (Enterprise)」の 2 種類の設定ができます。設定方法については、この PART の「WPA を設定する」(P.34) をご覧ください。

・ 802.1x 認証

無線ネットワークを確立する際に、認証サービスを受けるセキュリティー設定です。正しい認証キーでアクセスすると認証サーバーが正規のユーザーであることを承認し、通信が可能になります。企業内のネットワークで利用されます。設定方法については、この PART の「RADIUS サーバーで使う場合の認証設定」(P.36)をご覧ください。

✕ セキュリティー設定は、通信相手機器に合わせて同じ内容の設定を行ってください。

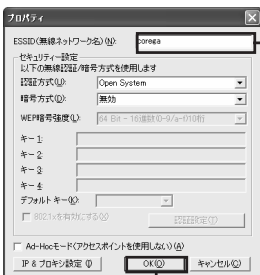
■ ESSID を設定する

- 1 画面右下のタスクトレイにある  をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。
- 2 「設定」タブをクリックし、「設定」画面で通信可能なESSID(ネットワーク)を自動的に表示します。
- 3 アクセスポイントのESSIDを検索されないような機能(ステルスAP)が有効にします。ESSIDが空欄で表示されます。
- 4 接続したいESSID(ネットワーク)をダブルクリックします。



ダブルクリック！

- 5 「プロパティ」画面が表示されますので、接続するESSIDと同じ値を入力し、[OK]ボタンをクリックします。



① 接続するアクセスポイントと同じESSIDを入力します。

② [OK] ボタンをクリックします。

- 6 手順1の「設定」画面に戻り、[適用]ボタンをクリックして設定を反映させます。

■ WEP を設定する

- 1 画面右下のタスクトレイにある  をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。
- 2 「設定」タブをクリックして「設定」画面(P.39)を表示させます。通信可能な ESSID(ネットワーク)を自動的に表示します。

注意! アクセスポイントに ESSID を検索されないような機能(ステルス AP)が有効になっている場合は ESSID が空欄で表示されます。

- 3 設定したい ESSID(ネットワーク)をダブルクリックします。
- 4 「プロパティ」画面が表示されるので、WEP の設定をします。



入力が完了したら [OK] ボタンをクリックします。

- ① 「Shared Key」を選択します。
- ② 「64Bit」「128Bit」「152Bit」の中から選択します。
- ③ 接続するアクセスポイントと同じ 16 進数の暗号キーを直接入力します。
 - ・ 64Bit : 16 進数 (0~9, a~f) 半角 10 桁
 - ・ 128Bit : 16 進数 (0~9, a~f) 半角 26 桁
 - ・ 152Bit : 16 進数 (0~9, a~f) 半角 32 桁
- ④ 初回アクセスに使う暗号キーを Key1 ~ 4 のの中から選択します。

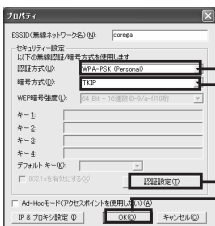
注意! 接続する無線 LAN 機器に WEP キーを自動生成する機能がある場合は、自動生成された WEP キーを直接入力してください。

- 5 [OK] ボタンをクリックします。
- 6 手順 1 の「設定」画面に戻り、右下の「適用」ボタンをクリックして設定を反映させます。

■ WPA を設定する

●家で使う場合

- 1 画面右下のタスクトレイにある  をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。
 - 2 「設定」タブをクリックして「設定」画面（P.39）を表示させます。通信可能な ESSID（ネットワーク）を自動的に表示します。
- 注意!** アクセスポイントに ESSID を検索されないような機能（ステルス AP）が有効になっている場合は ESSID が空欄で表示されます。
- 3 設定したい ESSID（ネットワーク）をダブルクリックします。
 - 4 「プロパティ」画面が表示されるので、WPA の設定をします。



- ① 認証方式で「WPA - PSK(Personal)」を選択します
- ② 暗号方式で「TKIP」または「AES」を選択します
- ③ 「認証設定」ボタンをクリックします

※ RADIUS サーバーを持たない小規模なネットワーク構築の場合は任意の共有キーを入力して設定します。



- ④ 初回アクセス時の暗号キーを入力します。

※ 半角英数記号 8 文字～63 文字を入力してください。

半角英数記号

0～9、a～Z! " # \$ % & ' () * + , - .
/ : ; < = > ? @ { | } ^ _ `

- ⑤ 入力完了したら [OK] ボタンをクリックします。

- 5 [OK] ボタンをクリックします。
- 6 手順 1 の「設定」画面に戻り、右下の [適用] ボタンをクリックして設定を反映させます。

●企業で使う場合

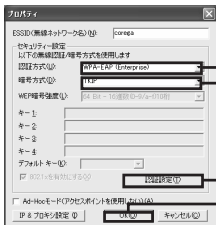
- 1 画面右下のタスクトレイにある  をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。

- 2 「設定」タブをクリックして「設定」画面(P.39)を表示させます。通信可能なESSID(ネットワーク)を自動的に表示します。

注意! アクセスポイントにESSIDを検索されないような機能(ステルスAP)が有効になっている場合はESSIDが空欄で表示されます。

- 3 設定したいESSID(ネットワーク)をダブルクリックします。

- 4 「プロパティ」画面が表示されるので、WPAの設定をします。



①

②

③

④ 入力完了したら [OK] ボタンをクリックします。

- ① 認証方式で「WPA - EAP(Enterprise)」を選択します
- ② 暗号方式で「TKIP」または「AES」を選択します
- ③ 認証設定をしたい場合は [認証設定] ボタンをクリックします。

※詳しくは、「RADIUSサーバーで使う場合の認証設定」(次ページ)をご覧ください。

- 6 手順1の「設定」画面に戻り、右下の[適用]ボタンをクリックして設定を反映させます。

- 5 [OK]ボタンをクリックします。

● RADIUS サーバーで使う場合の認証設定

RADIUSサーバーを持つ大規模なネットワークではお使いのネットワークに合わせた設定が必要です。ご使用の環境によって設定が異なりますので、個々のサービスの担当者にお問い合わせください。

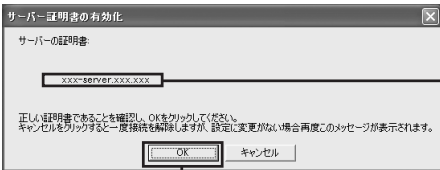
- ❖ ユーザー証明書はあらかじめダウンロードなどをして、インストールしておく必要があります。

ここでは「EAP-TLS」の設定をする場合の説明をします。



- ① 「EAP-TLS」を選択します。
- ② 「ユーザー証明」にインストール済の認証サーバーの認証キーを選択し、「サーバーの証明書の有効化」にチェックマークをつけます。
- ③ 「ユーザー名」を入力します。
- ④ 入力が完了したら [OK] ボタンをクリックします。

- ・「設定」画面に戻り、右下の[適用] ボタンをクリックして設定を反映させます。
- ・「EAP-TLS」の設定完了後、しばらくすると下のメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると「信頼されたルート証明機関」にサーバが自動的に追加されます。



追加されるサーバ名が表示されます。

[OK] ボタンをクリックします。

- ❖ 弊社ではWindows 2000 Server インターネット認証サービス(IAS)で動作を確認しております。



- ・本製品で設定できる WEP および WPA 設定は以下のとおりです。
- ・暗号化の設定は接続する無線LAN機器の設定と同じにする必要があります。

● WEP…Infrastructure/Ad-Hoc 共通

認証方式	暗号方式	WEP 暗号強度
Open System	無効	—
	WEP	64Bit - 16進数 (0～9/a～f) 10桁 128Bit - 16進数 (0～9/a～f) 26桁 152Bit - 16進数 (0～9/a～f) 32桁
Shared Key	WEP	64Bit - 16進数 (0～9/a～f) 10桁 128Bit - 16進数 (0～9/a～f) 26桁 152Bit - 16進数 (0～9/a～f) 32桁

● WPA…Infrastructure の場合

認証方式	暗号方式	認証設定
WPA - EAP(Enterprise)	TKIP	EAP - TLS LEAP EAP - TTLS PEAP
	AES	EAP - TLS LEAP EAP - TTLS PEAP
WPA - PSK (Personal)	TKIP	共有キー
	AES	共有キー

● WPA…Ad-Hoc の場合

認証方式	暗号方式	認証設定
WPA - None	TKIP	共有キー
	AES	共有キー

PART4 ユーティリティの画面について

ユーティリティを起動しよう

画面右下のタスクトレイにある  をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。

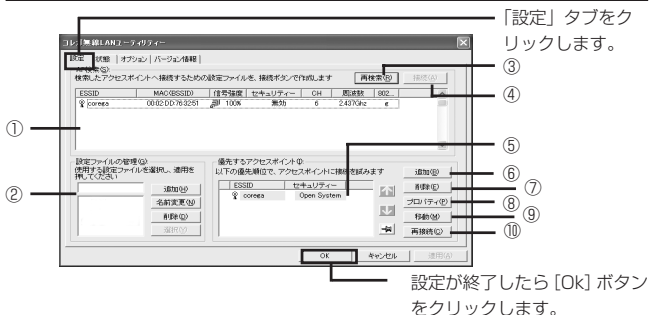
ユーティリティには、以下の4つのタブがあります。

設定内容に応じて、ユーティリティのタブをクリックしてください。



タブ名	内容
設定	ネットワークの接続を設定することができます。
状態	ネットワークの接続状態を確認することができます。
オプション	オプション機能の設定を変更することができます。
バージョン情報	本製品のソフトウェアの現在のバージョンを確認できます。

「設定」画面



項目名	説明
① AP 検索	利用可能な無線ネットワークのリストが表示されます。
② 設定ファイルの管理	個々の無線の設定した内容を設定ファイルに保存することができます。保存できるファイルの数はお使いのパソコンによって違います。
③ 再検索	クリックすると利用可能な無線ネットワークの検索を開始します。
④ 接続	クリックするとネットワークにアクセスを始めます。セキュリティ設定がされている場合は、同じ設定をしておく必要があります。
⑤ 優先するアクセスポイント	「AP 検索」で表示された無線ネットワークをクリックすると表示され、優先的に接続できるようにします。最大で 100 件の表示をすることができます。
⑥ 追加	無線のネットワークを新たに設定する場合クリックします。
⑦ 削除	「優先するアクセスポイント」で表示された無線ネットワークを削除します。
⑧ プロパティ	「優先するアクセスポイント」で選択した無線ネットワークのセキュリティ設定をすることができます。(P.31)
⑨ 移動	「設定ファイルの管理」に登録されているファイル間でアクセスポイントを移動させることができます。
⑩ 再接続	接続が途切れたアクセスポイントを再接続させます。

本製品は「優先するアクセスポイント」に表示されたESSID(ネットワーク)の設定に対して、「IPアドレス」「プロキシ」の設定を行うことができます。(Windows XP/2000のみ)



「設定」画面の「AP 検索」欄に表示されている、ESSID (ネットワーク) から設定したいESSID (ネットワーク) をダブルクリックし、プロパティ画面を表示させます。

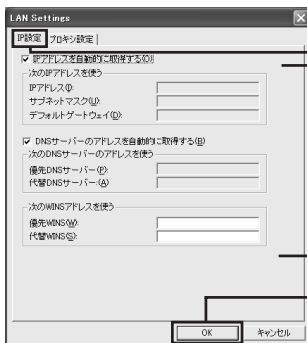
「IP&プロキシ設定」ボタンをクリックします

注意! Windows 2000やWindows XPでは、「Administrator」や「コンピュータの管理者」権限を持つユーザーでないと、設定することができません。

■ 「IP 設定」画面

「IP 設定」タブをクリックします。

IP アドレスと DNS サーバーの設定を入力してください。



「IP 設定」タブをクリックします

ご使用の環境に合わせて入力してください

入力が完了したら [OK] ボタンをクリックします

■「プロキシ設定」画面

「プロキシ設定」タブをクリックします。
プロキシサーバーの設定を入力してください。

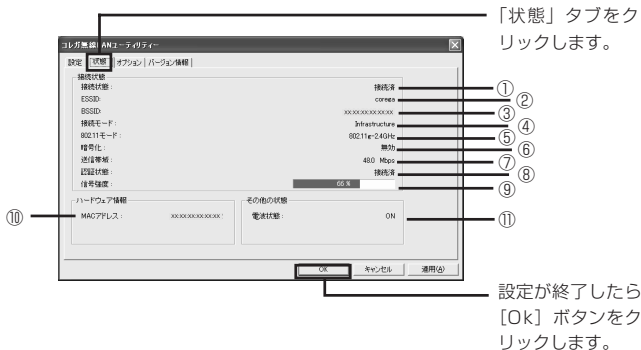
「プロキシ設定」タブをクリックします。

お使いの環境に合わせてプロキシの設定を入力してください。

入力が完了したら [OK] ボタンをクリックします。

4

「状態」画面



項目名	説明
①接続状態	本製品の接続状態を表示します。
②ESSID	現在設定されているESSIDを表示します。 ※工場出荷時の設定は「corega」です。
③BSSID	接続相手機器のMacアドレスを表示します。
④接続モード	設定されている接続モードを表示します。
⑤802.11モード	現在接続されている通信規格を表示します。
⑥暗号化	現在設定されているセキュリティー設定を表示します。
⑦送信帯域	現在送信している送信帯域を表示します。
⑧認証状態	通信相手機器との接続状態を表示します。
⑨信号強度	通信相手機器との信号の強度を%で表示します。
⑩MACアドレス	本製品のMacアドレスが表示されます。
⑪電波状態	本製品が通信可能な状態であることを表示します。

「オプション」画面

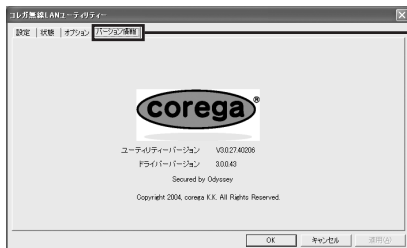


項目名	説明
①一般設定	チェックをつけると各機能が動作します。
②優先ではないESSID (ネットワーク) に自動 的に接続	チェックをつけると「設定」画面 (P.39) で検索され たESSID (ネットワーク) を優先順位をつけることなく 接続します。 この項目にチェックをつけると、常に電波の強いアク セスポイントと接続します。
③使用する通信モード	「設定」画面でのESSID(ネットワーク)を検索するモー ドを設定することができます。
④周波数帯域	本製品の通信を行う周波数帯域を設定することができ ます。「802.11b - 2.4GHz」、「802.11b/g - 2.4GHz」、「802.11a - 5GHz」、「Auto」のいずれ かから選択してください。 ※工場出荷時の設定は「Auto」です。
⑤ Ad-Hoc 時の周波数	Ad-Hoc 時の使用する周波数を設定することができま す。「2.4GHz」、「5GHz」のいずれかから選択してく ださい。 ※工場出荷時の設定は「2.4GHz」です。

項目名	説明
⑥ Ad-Hoc のチャンネル	Ad-Hoc 時の使用するチャンネルを設定することができます。「Auto」、1～14チャンネルのいずれかから選択してください。（「周波数帯域で「802.11a－5GHz」を選択した場合は「Auto」のみになり、選択することはできません。）※工場出荷時の設定は「Auto」です。
⑦省電力モード	消費電力を抑えるよう設定できます。 「無効」「最大」「速度優先」のいずれかから選択できます。 無効 …………… 省電力モードを無効にします。 最大 …………… 無線の受信効率を下げて、バッテリーの消費電力を抑えます。 速度優先 …… 無線の受信効率を上げつつ、バッテリーの消費電力も抑えます。最大よりバッテリーの消耗が早くなります。 ※工場出荷時の設定は「速度優先」です。 ※通常は設定を変更する必要はありません。
⑧送信電力	本製品の送信電力の出力を設定することができます。「100%」「50%」「25%」「12.5%」「最小」のいずれかから選択してください。 ※工場出荷時の設定は「100%」です。 ※通常は設定を変更する必要はありません。
⑨ Super A/G	「ON」に設定すると「Super A/G」モードを搭載した無線機器と通信した時、接続するアクセスポイントと設定を合わせることによって、パースト転送およびデータ圧縮を行います。これによりスループットを向上させることができます。「OFF」「ON（圧縮）」「ON（無圧縮）」のいずれかから選択してください。 ※工場出荷時の設定は「ON（圧縮）」です。

「バージョン情報」画面

本製品のソフトウェアの現在のバージョンが表示されます。



「バージョン情報」タブをクリックします。

PART5 トラブルや疑問があったら

本製品を使っていて「困ったな」「うまく動かない…」と思ったとき、疑問があったときは、このPARTで解決方法を探してください。

解決のステップ

①取扱説明書を再確認する。管理者に確認する



②このPARTのQ&Aを確認する

- ・本製品用ユーティリティのインストールができない
- ・「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない
- ・「デバイスマネージャ」で「×」が付く
- ・ユーティリティを削除するには？
- ・通信ができない
- ・ユーティリティに表示されないタブがある
- ・より安定した通信をするには？
- ・通信速度が遅い
- ・「マイネットワーク」に他のパソコンが表示されない
- ・ホットスポットサービスを利用するには？
- ・最新のユーティリティやドライバーを入手したい



③コレガのホームページの情報を活用する



④それでも解決しなければ、サポート窓口にお問い合わせしてみる

メモ コレガのホームページのアドレス、サポート窓口の連絡先、営業時間などについては、「付録」の「製品に関するご質問は…」(P.58)をご覧ください。

取扱説明書を再確認する。管理者に確認する

本書以外にも通信相手の機器の取扱説明書、パソコンに添付の取扱説明書をお手元にご用意ください。ネットワークにつながらない原因は複雑なため、本製品の設定が正しくても、他の設定が間違っていたり、通信相手の機器の問題で正しく動作しないこともあります。

このほか…

- ・企業などでお使いの場合は … ネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。ネットワーク管理部門などに確認してください。
- ・インターネットにつながらないときは … インターネットプロバイダーから送られてきた各種設定項目を確認して、設定してください。

Q&A

■本製品用ユーティリティのインストールができない

- ×** ・ユーティリティのインストール方法は、P.14で紹介しています。
・最新のソフトウェアは、コレガのホームページで提供しています。

次のことを確認してください。

● 本製品に対応の機種、OS をお使いですか？

「PART1 ます準備が必要」の注意 (P.10) をご覧になり、確認してください。

● インストール権限のあるユーザーですか？

Windows 2000 や Windows XP では、「Administrator」や「コンピュータの管理者」権限を持つユーザーでないと、ソフトウェアのインストールやネットワークの設定ができないことがあります。

● 「マイコンピュータ」に CD-ROM ドライブが表示されていて、使える状態になっていますか？

使用できない状態の場合は、パソコンメーカーにお問い合わせください。

● 本製品をパソコンに取り付けた状態でインストールしていませんか？

パソコンに本製品の情報の一部がインストールされてしまい、挿し直しても正常にソフトウェアがインストールされなくなってしまう場合があります。その場合は「デバイスマネージャ」に「？」がついて「イーサネットコントローラー」と表示されますので、右クリックし、「削除」を選択します。本製品を取り外した後、ユーティリティディスクを使って、無線 LAN ソフトウェアをインストールしなおしてください。

● お使いのパソコンに” Windows 98 CD-ROM” は、ついていますか？

本製品のドライバーをインストールするとき、「Windows 98 CD-ROM」のラベルの付いたディスクを挿入して「[OK] をクリックしてください。」とメッセージが表示されることがあります。お使いのパソコンに” Windows 98 CD-ROM” のラベルの付いたディスク (OSのCD-ROM) がついていない場合は、パソコンメーカーにお問い合わせください。

■ 「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない

本製品のアイコンが以下のようにになっている場合は、本製品のユーティリティのインストールに失敗しています。このようなときは、本製品のユーティリティをいったん削除し、再インストールしてください。

- ・「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入った
- ・「ネットワークアダプタ」の項目がない
- ・「CG-WLCB54AG」アイコンに「!」「?」マークが付く
- ・「CG-WLCB54AG」アイコンが2つ以上ある

メモ Windows 2000 をお使いの場合、「本製品をパソコンから取り外す」(P.21)の手順1で、をクリックした後、本製品を取り外すまで一時的に、デバイスマネージャの「CG-WLCB54AG」アイコンに「!」が付きますが、ドライバーのインストールの失敗ではありません。

- 1 「その他のデバイス」「不明なデバイス」「ネットワークアダプタ」の下の不正にインストールされた「CG-WLCB54AG」アイコンを右クリックし、「削除」をクリックします。
- 2 「デバイスの削除の確認」ダイアログボックスが表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。
- 3 パソコンの電源を切った後、本製品を取り外します。
- 4 パソコンの電源を入れてこのPARTの「ユーティリティを削除するには?」(P.49)をご覧ください、ソフトウェアを削除します。
- 5 「PART2 本製品をパソコンに取り付けよう」「ユーティリティをインストールする」(P.14)をご覧ください、ユーティリティを再インストールします。

■「デバイスマネージャ」で「×」が付く

「デバイスマネージャ」の「CG-WLCB54AG」アイコンに「×」マークが付いているときは、本製品が「使用不可」または「無効」に設定されています。

次の手順で、本製品を使用できるように設定してください。

● Windows XP/2000 の場合

- 1 「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、その下に表示される「CG-WLCB54AG」を右クリックして「有効」を選択します。

● Windows Me/98 SE の場合

- 1 「デバイスマネージャ」の「CG-WLCB54AG」をクリックして選択(反転表示)し、「プロパティ」をクリックします。
「全般」タブが表示されます。
- 2 「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のチェックを外し、「すべてのハードウェアプロファイルで使用する」にチェックを付けます。
- 3 [OK] ボタン をクリックします。

■ユーティリティを削除するには？

本製品用ユーティリティをパソコンから削除する方法を説明します。

- 1 「本製品をパソコンから取り外す」(P.21)の手順をご覧になり、パソコンから本製品を取り外します。

注意! 本製品を取り付けた状態で以下の手順を実行すると、正常にソフトウェアの削除が行えない場合があります。

- 2 [スタート] ボタン－「プログラム」－「corega-WLCB54AG Series」－「無線LANモニターの削除」の順にクリックします。
「ファイル削除の確認」が表示されます。
- 3 [OK] ボタン をクリックします。
ユーティリティの削除が行われ、しばらくすると「InstallShield Wizardの完了」が表示されます。
- 4 [完了] ボタンをクリックします。

これでユーティリティの削除は終了です。

■通信ができない

● CardBus 対応の PC カードスロットにセットしていますか？

PCカードタイプの場合、本製品をセットしているPCカードスロットが、CardBus に対応しているか確認してください。CardBus 非対応のPCカードスロットに本製品をセットしても、本製品は動作しません。無理に差し込もうとすると、本製品やPCカードスロットを破損する恐れがありますので、ご注意ください。

● 本製品は正しく取り付けられていますか？

パソコンのPCカードスロットやPCIスロットに本製品がきちんと差し込まれているか再確認してください。パソコンの電源が入っている状態で「Power LED」が点滅していれば、正しく取り付けられています。

● 本製品用ユーティリティは、インストールされていますか？

「PART2 本製品をパソコンに取り付けよう」「ユーティリティをインストールする」(P.14) をご覧になりインストールしてください。

● ネットワークの設定は済んでいますか？

「PART3 無線LANの設定をしよう」(P.22) をご覧になり、設定してください。

● 通信相手の機器は、このパソコンと通信できるタイプですか？

無線LANにはいくつかの方式があり、同じ方式を使う機器でないと通信できません。「PART1 まず準備が必要」「接続方法を決めよう」(P.11) をご覧になり、確認してください。

● セキュリティの設定を確認してください

「PART3 無線LANの設定をしよう」「セキュリティを設定する」(P.31) をご覧になり、セキュリティの設定を確認してください。特に、すでに無線LANが構築されている環境に機器を追加するときなどは注意が必要です。アクセスポイント側で「WEP 暗号化」または「WPA」を設定している場合は、本製品を取り付けたパソコン側にも同じ暗号や共通キーを設定してください。

● ESSID を確認してください

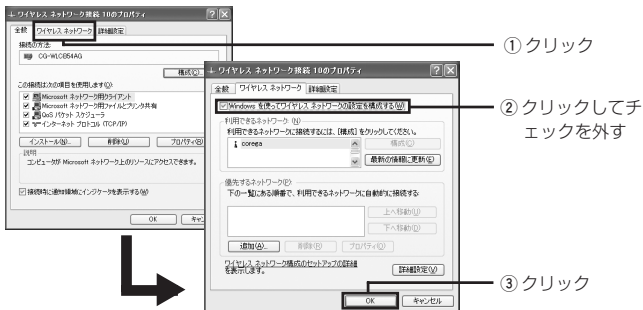
通信相手の ESSID と本製品の ESSID が同じになっていないと通信できません。「PART3 無線LANの設定をしよう」(P.22) をご覧になり、本製品の ESSID を通信相手に合わせて設定してください。



弊社の無線ネットワーク機器の ESSID または SSID の初期設定は、「corega」になっています。

■ユーティリティが表示されず、Windows の設定画面が表示される (Windows XP のみ)

 をクリックするとユーティリティが表示されず、下の画面が表示される場合、「ワイヤレスネットワーク」タブをクリックし、「Windowsのワイヤレスネットワークを使って構成する」をチェックマークをクリックしてチェックを外してください。



■より安定した通信をするには？

- 相手側の無線 LAN 機器との距離を近づける
- 相手側の無線 LAN 機器との間に障害物を置かない
- 金属製のラックなどに無線 LAN 機器を設置しない

通信速度が遅い、通信が途切れるような場合は、まず各機器の距離を近づけて試してください。また、相手側機器との間に、壁や床、金属製の家具などがあると、通信に影響することもあります。

●電子レンジや医療機器から離して使用する

意外に思うかもしれませんが、電子レンジは無線 LAN の大敵です。電子レンジが調理に使う電磁波と、無線 LAN が使用する周波数が近いため影響が出てしまいます。

●パソコンの向きを変えてみる

パソコンの向きを変えると本製品のアンテナの向きも変わって、電波が入りやすくなることもあります。

●設定を変更してみる

アドホックモードのときは、チャンネルを変更すると通信が安定することがあります。このほかのネットワークの設定変更も試してください。

■通信速度が遅い

メモ 通信速度や通信距離を確保するための情報をこのPARTの「より安定した通信をするには？」(P.51)で紹介しています。併せてご覧ください。

●通信相手側機器との距離を確認してください。

通信相手側機器との距離によって、通信速度が大きく変わることがあります。

●電子レンジを使用していませんか？

電子レンジで使用される電磁波は、無線LANで使用される周波数に近いので、無線LANに影響を与えることがあります。

●無線を利用した家電を使用していませんか？

2.4GHzの無線を使用した家電（液晶テレビやオーディオ機器など）は無線LANで使用される周波数に近いので、無線LANに影響を与えることがあります。

●複数台のパソコンで、無線LANを使っていませんか？

無線LANで接続されているパソコンが多くなると、それぞれの通信速度が遅くなります。アクセスポイントに接続するパソコンの台数を減らしてみてください。

■「マイネットワーク」に他のパソコンが表示されない

「マイネットワーク」の「ローカルネットワーク」に他のパソコンが表示されない場合は、現在設定中のパソコンが属している「ワークグループ」または「ドメイン」と一致していない可能性があります。詳しくは、パソコンメーカーにお問い合わせください。

●Windows XP の場合

- 1 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
- 2 画面左の「システムのタスク」にある「システム情報を表示する」をクリックします。
「システムのプロパティ」が表示されます。
- 3 「コンピュータ名」タブをクリックして、[変更]ボタンをクリックします。
- 4 「コンピュータ名の変更」から、表示したいパソコンと同一の「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

● Windows 2000 の場合

- 1 デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリックして、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「ネットワークID」タブをクリックして、「プロパティ」をクリックします。「識別の変更」ウィンドウが表示されます。ここで、表示したいパソコンと同じ「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

● Windows Me/98 SE の場合

- 1 [スタート] ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「ネットワーク」をダブルクリックします。
- 3 「識別情報」タブをクリックします。「識別情報」タブの画面が表示されます。ここで、表示したいパソコンと同じ「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

■ ホットスポットサービスを利用するには？

ホットスポットのサービス提供形態はさまざまで、無料で公開されているもの、会員制で手続きが必要なものなどがあります。

「DHCPを使う」「ESSIDはANYまたは空欄」が一般的な設定です。詳しくはホットスポットの管理者などにお問い合わせください。

メモ 不特定多数に向けてサービスされている「ホットスポット」は、便利な反面、セキュリティ上の問題も考えられます。次のような方法で対策をしてください。詳しくは、Windows、各ソフトウェアの取扱説明書やヘルプをご覧ください。

- ・ ファイルやフォルダの共有をしないようにする
- ・ ファイルやフォルダにパスワードを設定する
- ・ ウイルス検出ソフトやファイアウォールソフトを組み合わせる

■ 最新のユーティリティやドライバを入手したい

改良などのために予告なく、本製品のユーティリティやドライバのバージョンアップ、パッチレベルアップを行うことがあります。

最新の情報は、コレガのホームページから入手することができます。

用語集

A ～

● AES(Advanced Encryption Standard)

米国商務省が暗号化標準技術として承認した暗号規格。TKIPより強固な暗号化を施すことが可能です。

● EAP(Extensible Authentication Protocol)

ユーザー認証の際に使用するプロトコルです。EAP-MD5(EAP Message Digest Algorithm 5)、EAP-TLS(EAP Transport Layer Secure)、EAP-TTLS(EAP Tunneled-TLS)などがあります。

● IEEE802.11a

無線通信規格の一つで、54Mbps 高速通信に対応しています。従来の IEEE802.11b との互換性はありません。

● IEEE802.11b

無線通信規格の一つで、11Mbpsの規格を持ちます。現在多くの製品に導入され普及しています。

● IEEE802.11g

無線通信規格の一つで、54Mbps の高速通信に対応しています。従来の IEEE802.11b と互換性を持ちます。

● LEAP(Lightweight Extensible Authentication Protocol)

Cisco Systems 社独自の認証規格です。

● Open System

ワイヤレスネットワークの標準を策定する業界団体「Wi-Fi Alliance」が提唱する WEP の暗号化規格です。

● PEAP(Protected EAP)

任意で設定された ID とパスワードで認証します。Microsoft 社の PEAP-EAP-MSCHAPV2 や PEAP-EAP-TLS があります。

● RADIUS(Remote Authentication Dial-in User Services)

アクセスポイントと認証サーバーの間で認証情報をやりとりする際に使用するプロトコル（言語）です。認証サーバーをRADIUSサーバーと呼ぶこともあります。

● Shared Key

WEPの暗号化規格の一種です。

● TKIP(Temporal Key Integrity Protocol)

一定時間ごとに暗号キーを変更する暗号化プロトコルです。

● WEP(Wired Equivalent Privacy)

ワイヤレスネットワークの標準を策定する業界団体「Wi-Fi Alliance」が提唱する暗号化規格です。無線通信のセキュリティー設定の一つで、通信内容を暗号化し、通信の解読を防ぎます。

● WPA(Wi-Fi Protected Access)

ワイヤレスネットワークの標準を策定する業界団体「Wi-Fi Alliance」が提唱する暗号化規格です。無線のセキュリティー設定の一つで、暗号化プロトコル（TKIP）を使って通信内容を暗号化し、一定時間ごとに暗号を更新します。そのためWEPよりも解読がされにくくなります。企業内向きのWPA-EAP(Enterprise)と一般家庭向けのWPA-PSK(Parsonal)の二種類があります。

● WPA-EAP(WPA-Enterprise)

企業などの大規模なネットワークに適したWPA規格です。RADIUSサーバーに認証キーのやりとりをする802.1x認証を使用し、セキュリティーを強化します。

● WPA-PSK(WPA-Pre-Shared Key)

一般家庭向けのWPA規格です。ユーザーが任意で設定した認証キーに基づいて通信内容を暗号化し、TKIPを使用し、通信データの暗号化を一定時間ごとに更新します。

● 802.1x 認証

RADIUSサーバーとアクセスポイントの間で接続した場合のユーザーを認証する機能です。RADIUSサーバーに登録された正しい認証キーでアクセスしたユーザーのみアクセスの認証を行います。

あ～

● 認証サーバー

企業などのローカル環境でユーザー認証をコントロールするサーバーのことです。RADIUSサーバーとも呼ばれます。

製品仕様

製品名		CG-WLCB54AG
PC インターフェース		PC Card Standard (Card Bus) Type II 準拠
無線部	サポート規格	国際規格：IEEE802.11、IEEE802.11b、 IEEE802.11g、IEEE802.11a 国内規格：ARIB RCR STD - 33/STD - 66/STD - 71
	転送方式	IEEE802.11b：DS-SS（直接拡散型スペクトラム拡散方式） IEEE802.11g、IEEE802.11a：OFDM（直交周波数分割多重変調方式）
	アクセス方式	CSMA/CA
	転送レート	IEEE802.11b：1/2/5.5/11Mbps IEEE802.11g、IEEE802.11a：6/9/12/18/24/36/48/54Mbps
	セキュリティ	WEP (64/128/152bit) WPA 方式 EAP エンタープライズ (IEEE802.1x 認証) WPA 方式 PSK パーソナル TKIP/AES (WPA の設定内に含む) 802.1x - WEP (WEP static 非対応)
	アンテナ形状/形式	PCB アンテナ / ダイバシティ
	周波数帯域（中心周波数表示） / チャンネル数	IEEE802.11b：2.412GHz～2.484GHz/1～14ch IEEE802.11g：2.412GHz～2.472GHz/1～13ch IEEE802.11a：5.170GHz～5.230GHz/34、38、42、46 の全 4ch
	対応モード	Infrastructure / Ad - Hoc
	ローミング	IEEE802.11 準拠
電源部	動作電圧	DC 3.3V
	最大消費電流	送信時：500mA、受信時：330mA
	最大消費電力	送信時：1650mW、受信時：1089mW
環境条件	動作時温度 / 湿度	温度：0～40℃ / 湿度 90%以下（ただし結露なきこと）
	保管時温度 / 湿度	温度：-20～60℃ / 湿度 95%以下（ただし結露なきこと）
外形寸法		54 (W) × 121 (D) × 5 (H) mm（アンテナ部含む）
質量		38g

工場出荷時の設定

本製品は、工場出荷時は以下の設定となっています。

通信モード	Infrastructure
周波数帯域	Auto
ESSID	corega
チャンネル	Auto
暗号化	無効

保証と修理について

■保証について

添付の製品保証書裏面に記載されている「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。無条件で本製品を保証するということではありません。正しい使用方法で使用情况のみ、保証の対象となります。本製品の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

■修理について

故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書をご覧ください。設定や接続が正しく行われているかを確認してください。現象が改善されない場合は、弊社ホームページに掲載されている「修理依頼用紙」をプリントアウトの上、必要事項をご記入したものと製品保証書および購入日の証明できるもののコピー（レシート等可）を添付し、製品（付属品一式と共に）をご購入された販売店へお持ちください。

修理をご依頼する際には、以下の点にご注意ください。

※弊社へのお持ち込みによる修理は受け付けておりません

- 修理期間中の代替機等は弊社では用意しておりませんので、あらかじめご了承ください。
- 保証書に販売店の押印がない場合は、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。
- 製品購入日の証明ができない場合、無償修理の対象となりませんのでご注意ください。
- 修理依頼時の運送中の故障や事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■有償修理について

有償修理の場合は、ご購入の販売店へお持ちください。下記のホームページに、有償修理価格が記載されますので、ご覧ください。

<http://www.corega.co.jp/repair/>

製品に関するご質問は・・・

製品に関するご質問は、コレガサポートセンターまでお問い合わせください。お問い合わせの際には、弊社ホームページに掲載されている「お問い合わせ用紙」または下記の必要事項をご記入いただいた書面を用意して、メール、FAXまたはお電話のいずれかでお問い合わせください。

※製品のお持ち込みによるサポートは受け付けておりません。

ご質問前に下記の必要事項をあらかじめ控えておいてください。

- ・製品名
- ・シリアル番号 (S/N)
- ・リビジョンコード (Rev.)
- ・お名前、フリガナ
- ・連絡先電話番号、FAX 番号
- ・購入店名
- ・購入日
- ・ご使用のパソコン機種
- ・OS
- ・お問い合わせ内容（できる限り詳しくお知らせください）
- ・ネットワーク構成



●お問い合わせ先の受付時間

月～金曜（祝・祭日を除く）
10:00～12:00、13:00～18:00

●お問い合わせ先

Mail サポート：下記の URL から Mail サポートのためのユーザー登録をした後、お問い合わせください。

<http://www.corega.co.jp/faq/>

FAX：045-476-6294

TEL：03-3797-1085

弊社ホームページのご案内

弊社ホームページでは、各種商品の最新の情報、最新ファームウェア、よくあるお問い合わせなどを提供しています。本製品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

<http://www.corega.co.jp/>

おことわり

- ・ 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- ・ 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- ・ 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- ・ 本製品の仕様またはそのご使用により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2004 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

2004 年 7 月 Rev.A 初版

セキュリティ設定控え

ESSID	
セキュリティ方式	
認証方式	
暗号方法	
暗号強度	
暗号化キー	
デフォルトキー	

無線 LAN 製品ご使用の注意

無線 LAN のセキュリティの設定および無線アクセスポイント、無線ルーターなどのアクセス制限の設定は必ず行ってご使用ください。

設定をしないでご使用の場合、隣接した無線 LAN からアクセスされる可能性があり、セキュリティ面から非常に危険です。

無線 LAN のセキュリティ設定を行っていない場合は、第三者より通信内容を盗み見られることや、お客様のパソコンに不正侵入される可能性がありますので、本製品のご使用には、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行うことをお勧めします。

本製品のセキュリティ設定に関する詳細は、本製品付属の取扱説明書等をご覧ください。